

●農学部デザイン農学科（高一種免（農業））

①教員養成に対する理念

■高一種免（農業）

本学科は食料問題や環境問題を中心に個別的な課題に取り組んできた従来の農学の発想・知識・技術を総合し、持続可能な循環型社会を設計（デザイン）できる高い専門性を有した人材育成を使命としている。とりわけ、将来の農業教育を担う質の高い教員養成を喫緊の課題とし、農学を基盤として農の多面的機能に関する幅広い知識と知恵を活かしながら、現代社会が直面している諸課題の総合的解決に寄与する意欲を持ち、農業教育の発展・推進に貢献する人材を養成することを目的とする。

低学年次には教養的科目や基礎的専門科目を配当し、作物の栽培や家畜の飼養に基づく食料生産だけでなく、農畜産物の加工・利用、食品の機能や特性と品質などの解析、食の利用法を探る技術、生物の持つ機能や生産物の利用、農産物や製品の流通、生物を活用した人の心身の健康への貢献などの基礎知識を習得させる。高学年次には総合化科目を配当し、新たな機能の開発、利活用、食農問題を含めた社会のあり方を設計（デザイン）するための演習を中心に展開し、現場から課題を発見し、解決策を考案して発信し、それを自ら実践していく柔軟性と行動力を身につけさせる。

以上の理念・構想から「農学における幅広い知識と深い思考力を総合化し、農業の多面的機能に係る現実社会の課題に対応できる能力を有するとともに、環境や生命に対する倫理感、持続的な食農システムの構築と福祉農学や ESD(Education for sustainable development)の実践に係る能力を有する教員」をデザイン農学科の目指す教員像とする。

②教職課程の設置趣旨

■高一種免（農業）

近代日本における農業教育は、将来を担う若者が農業に対して希望を抱けるような情報発信と農業が継続できる環境の整備、農業経営や技術を十分習得させるための教育システムの構築が課題である。この課題に応えるために、本学科では生物がもつ多面的機能の利用と開発を推進するだけでなく、社会・地域・生活から課題を発見して解決策を考案する発想力と行動力、さらには異分野他職種と連携を図るためのコミュニケーション能力を養成できるカリキュラムを整備する。

「農業実習」「農学原論」「デザイン農学概論」「サステナビリティ農学」等の基礎的科目により、農業に関する基礎的な知識を習得すると共に、「畜産物利用学」「農産物利用学」「食品化学」「食品分析学」「食品機能学」「食品微生物学」「農産物マーケティング論」「農業経営学」等により、生産・加工・流通・消費・経営を多角的に学び、「生活デザイン農学」「社会デザイン農学」「生物介在療法学」「農福医連携デザイン農学」等において、農の多面的利用に関する実践例を具体的に学ぶ。また「デザイン農学栽培入門」「デザイン農学基礎実験実習・演習」「デザイン農学専攻別実験実習・演習」等の演習科目により、実践、課題発見、分析、発表などの具体的能力を身につける。さらに各研究室で実施する総合化科目を通じて、専門知識と技術を深化させると共に社会的視野を広げ、地域及び社会貢献に資する能力を習得する。これらの課程を修めることによって、高校「農業」教員の養成が可能であるといえる。

以上のことから、本学科の学修が高等学校「農業」の教育目標と合致するため、高校「農業」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考える。